

## 小川勝士先生を偲んで

矢部 芳郎

岡山大学名誉教授・本研究会名誉会員

昭和61年(1986)の岡山実験動物研究会の会報に、小川勝士先生による特別講演「動物実験と私」の要旨がある。その講演は、昭和59年(1984)、私が、定年を前にお忙しい先生に、無理にお願いしたものだった。先生は、敗戦後まもない昭和23年(1948)に岡山医科大学(現：岡山大学医学部)の病理学教室に入られ、以後、一貫して病理学の教育と研究に従事して来られた。従って、先生の身体には、戦後からの岡山大学医学部の動物実験が、しみ込んでいると思ったからである。そこにあるものを、短く紹介してみよう。

最初にあるのは、戦後10年ほどの間のことである。当時、実験に使用される動物の殆どすべてが、いわゆる動物屋さんから持ち込まれる雑系のものであったこと；それらの動物は、大工さんに作ってもらった木製の箱、または、手製のケージ、で飼育されたこと；餌としては、麦や野菜屑やグラントの周りから刈りとってきたクローバを与えたこと；床敷には、稲藁を刻んだものを使用したこと、そして、床敷をかえるのを怠るとダニが繁殖して、それに咬まれたこと；時には蛇が入ってきてラットなどを飲み込んだこと；暖房用具としては、電気ストーブや石炭ストーブが使用されたこと、そして、そのために、火が心配でならなかったこと；などについて話されている。

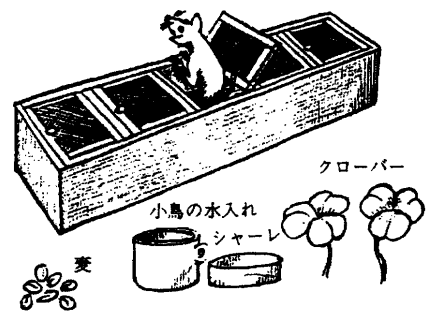
次は、昭和33年(1958)になって、純系マウスが導入された頃のことである。米国から純系マウスが導入され、その飼育・繁殖のために、また、それらを使用して行う実験のために、それまでの動物小屋といったものではなく、研究棟の一画(マウス・コロニーと名づけられた)が当てられたこと；また、設備的にも資材の面でも改善されて、少しは、欧米の動物実験に近い状態になったこと；が話されている。

ついで、動物実験施設が建設されるまでのことである。小動物に関する問題は改善されたが、少し大形の動物を使用して行う実験では、飼育場所や動物の鳴き声といった難しい問題があったこと；そうしたことで、病院の患者さんなどから苦情がでて困ったこと；そうしたことのために、昭和45年(1970)頃より、動物実験のための総合的施設を建設する動きが始まったこと；そして、昭和58年(1983)――戦後38年、そして、先生が定年で退

職される2年前――になって、ようやく、岡山大学医学部に動物実験施設(現：自然生命科学研究支援センター・動物資源部門)が完成し、何とか近代的といえる環境と設備のあるところで、動物実験ができるようになったこと；が話されている。

私は、それらのことの殆どすべて(少なくとも昭和30年頃からの)を、先生の近くで見えてきた。事実、先生は、いつも、ご自身の動物実験がより良いものとなるように、いろいろ工夫し努力しておられた。それと同時に、岡山大学医学部における動物実験の全体が、より良いものとなっていくように、世話人の中心となって努力しておられた。そして、それが一応完了した段階で、定年により退職されたのである。

さらに、忘れられないのは、先生が、この講演で使用されたスライドのことである。スライドの原図



マウス、ラット用木製ケージと飼料(昭和20年代)

(小川勝士先生の描かれた絵のひとつ)

は、鉛筆で描かれた絵であった。それらは、戦後から動物実験施設ができるまでの間に先生が使用された動物の飼育箱、飼育器材、飼育室の内景・外景、設備等の絵であり、すべて、先生が、昔を思い出しながら、ご自身で描かれたものであった。私が「先生は、絵がお上手ですね。先生の絵には、写真にはない味わいがありますよ」というと、先生が、笑いながら、「私は、子供のころ、絵を描くのが好きだった」といわれたのを、おぼえている。そして講演当日、「写真がないので」とことわられて、それらの絵

のスライドを示しながら話をされた先生のお姿が、今でも、はっきり見える。

先生は、講演のはじめに、「学問とは縁遠い昔話で貴重なお時間を費やしますことをお許し下さい」と言われた――目新しいことを言わないことに、気がつかわれたのでしょうか。しかし、先生の話と、それに使用された絵には、「貧しいけれども、何とか工夫して、良い動物実験をしよう。また、良い動物実験が出来るようにしなければ」と努力し続けられた、先生の気持がこめられていたのです。そして、口には出されなかったけれども、「この姿勢は、何時の時代にも大切なんだよ！」と言われたのだと思います。

先生にいただいたご指導とご厚情に、心からの感謝をささげつつ、

平成21年（2009）12月

小川勝士先生略歴：大正9年（1920）1月24日香川県高松市に生、昭和20年（1945）新潟医科大学卒業、昭和23年（1948）岡山医科大学病理学教室（浜崎教授）副手、昭和37年（1962）岡山大学教授（医学部）、昭和60年（1985）定年退官し、岡山大学名誉教授、平成21年（2009）10月15日没

この筆をとるようにおすすめ下さった猪貴義先生と佐藤勝紀先生（小川先生の特別講演要旨のコピーを送って下さった）に、心より感謝致します。